

「平成 25 年度北九州市高齢者等実態調査」の調査結果について

(地域福祉に関するものを抜粋)

1 調査目的

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関する意識や新たなニーズを把握することで、今後の高齢社会対策を進めるうえでの基礎資料を得ることを目的に実施した。

2 調査の対象及び回収率など

	調査対象	対象者数	回収数	有効回収率
対象	65 歳以上の市内居住者（以下、『一般高齢者』と表記）	3, 000 人	1, 822 人	60. 7%
	介護保険の要支援・要介護の認定を受けている市内在宅高齢者（以下、『在宅高齢者』と表記）	3, 600 人	1, 603 人	44. 5%
	20 歳～64 歳の市内居住者（以下、『若年者』と表記）	3, 000 人	1, 196 人	39. 9%
方法	郵送による配布・回収			
期間	平成 26 年 1 月 20 日～平成 26 年 2 月 14 日			

※高齢者等実態調査は、上記の対象者以外に、市内の介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設に入所する施設入所者 600 人を対象にも調査を実施（回収数：232 人、回収率 38. 7%）。

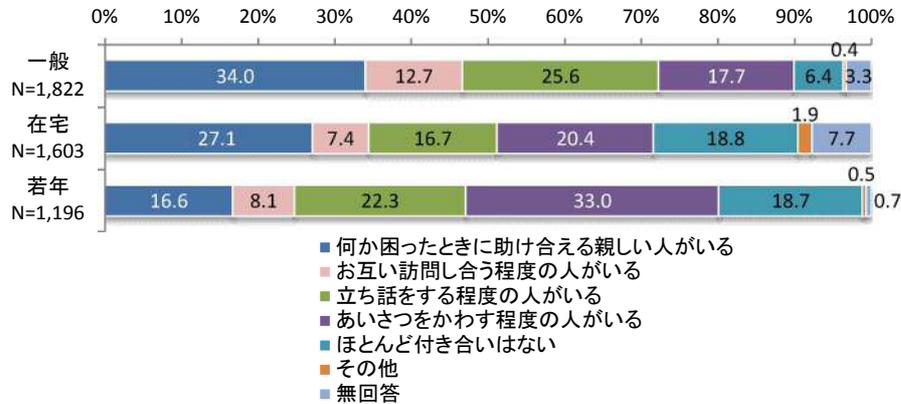
I 地域の支え合いについて

(1) 近所づきあい 【報告書 52頁】

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

調査対象者により、ばらつきは見られるが、7～8割の方は何らかの付き合いを持っている。

在宅高齢者は要介護度が上がるにつれ、若年者は若い世代ほど何らかの付き合いを持っている割合が低くなっている。

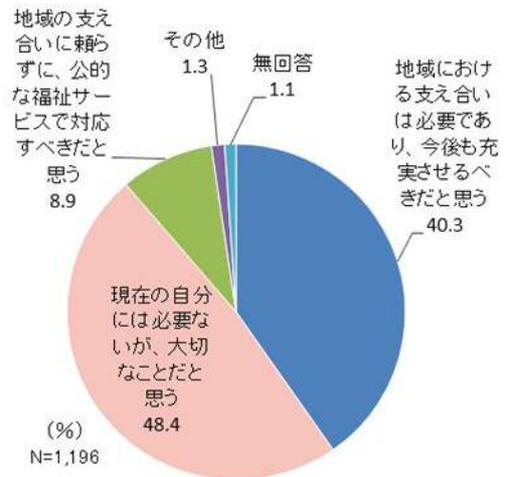


(2) 地域の支え合いについて

【報告書 54頁】

対象：『若年者』

「現在の自分には必要ないが大切なことだと思う」が48.4%と最も高く、次いで「地域における支え合いは必要であり、今後も充実させるべきだと思う」が40.3%となっており、計88.7%の人が地域の支え合いは必要であり、大切だと回答している。

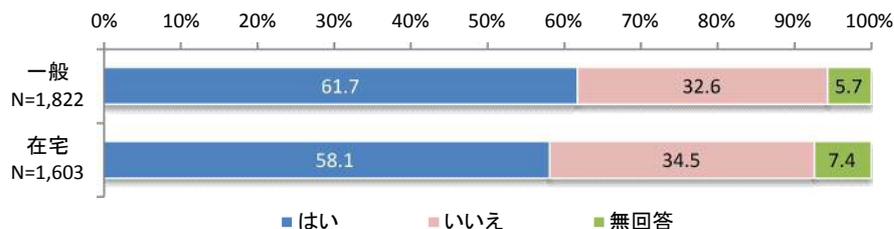


II 地域福祉のネットワークについて

(1) 地域における見守りや支え合いの取り組みの認知度 【報告書 57頁】

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

民生委員・児童委員、福祉協力員、地域の役員による一人暮らしの方への訪問など、地域における見守りや支え合いの取り組みを知っていると回答した割合は、一般高齢者61.7%、在宅高齢者58.1%となっている。

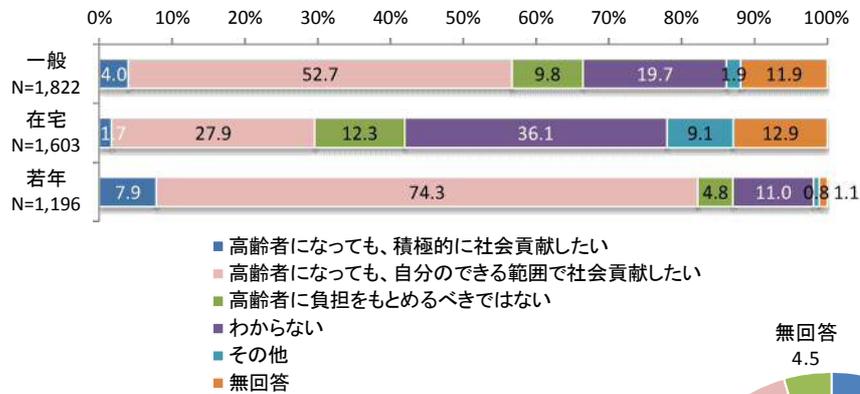


Ⅲ ボランティアや地域における自治活動について

(1) 高齢者の社会貢献について 【報告書 42頁】

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

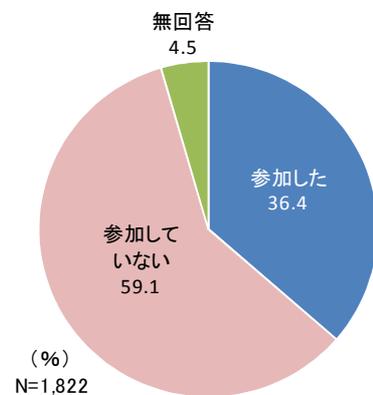
一般高齢者、若年者は、「高齢者になっても、自分のできる範囲で社会貢献したい」が最も多く、在宅高齢者では「わからない」が36.1%で最も多く、次いで「高齢者になっても、自分のできる範囲で社会貢献したい」27.9%となっている。



(2) 地域活動への参加の有無 【報告書 43頁】

対象：『一般高齢者』

この1年間に、自治会などの地域活動に参加した人の割合は36.4%、参加していない人の割合は59.1%であった。

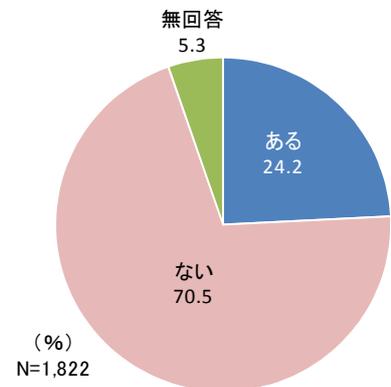


(3) ボランティア活動への参加の有無 【報告書 44頁】

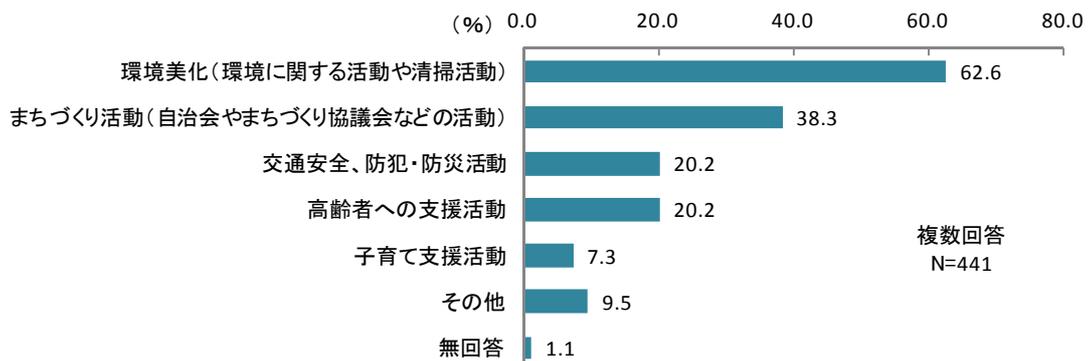
対象：『一般高齢者』

ボランティア活動については、70.5%の方は参加したことがないと回答している。

ボランティア活動の内容としては、「環境美化」、「まちづくり活動」が多い。



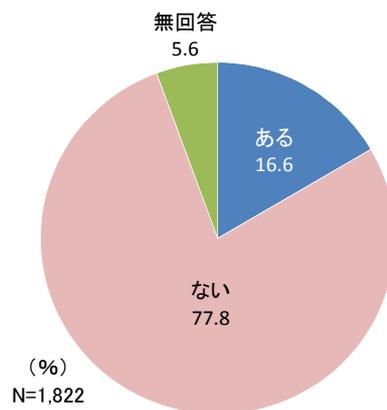
【ボランティア活動の内容】(複数回答)



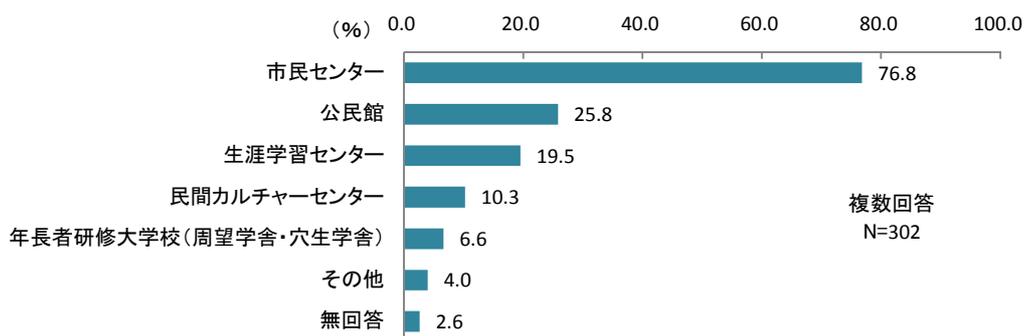
(4) 生涯学習活動への参加の有無 【報告書 45頁】

対象：『一般高齢者』

この1年間に、何らかの生涯学習活動を行ったことがある人の割合は16.6%、行っていない人の割合は77.8%であった。



【生涯学習活動の活動場所】(複数回答)



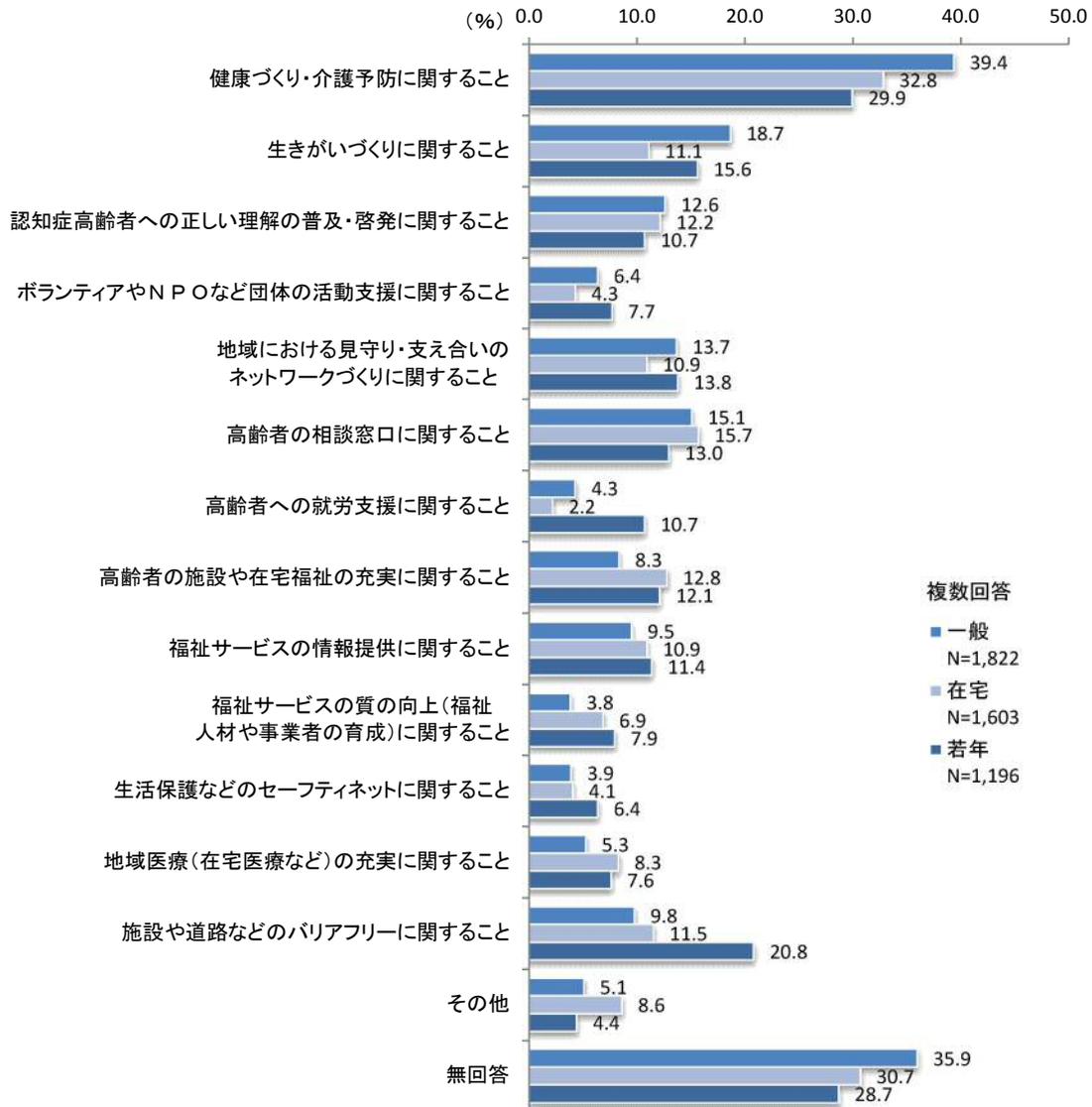
IV 保健福祉全般について

(1) 高齢者施策の充実についての実感 【報告書 110頁】

対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』、『若年者』

調査対象者のいずれにおいても、「健康づくり・介護予防に関すること」が最も多い。

2番目に多いのは、一般高齢者では「生きがいづくりに関すること」、在宅高齢者では「高齢者の相談窓口に関すること」、若年者では「施設や道路などのバリアフリーに関すること」となっている。

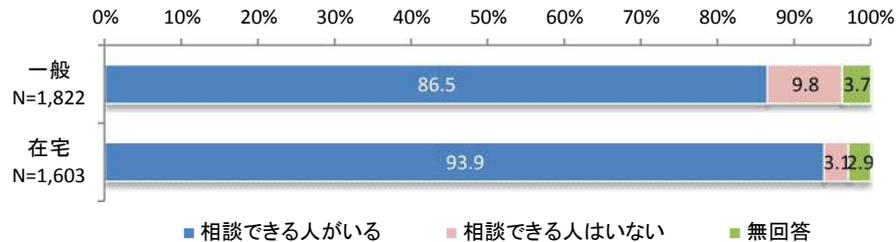


(3) 介護や病気についての、主な相談相手 【報告書 47頁】

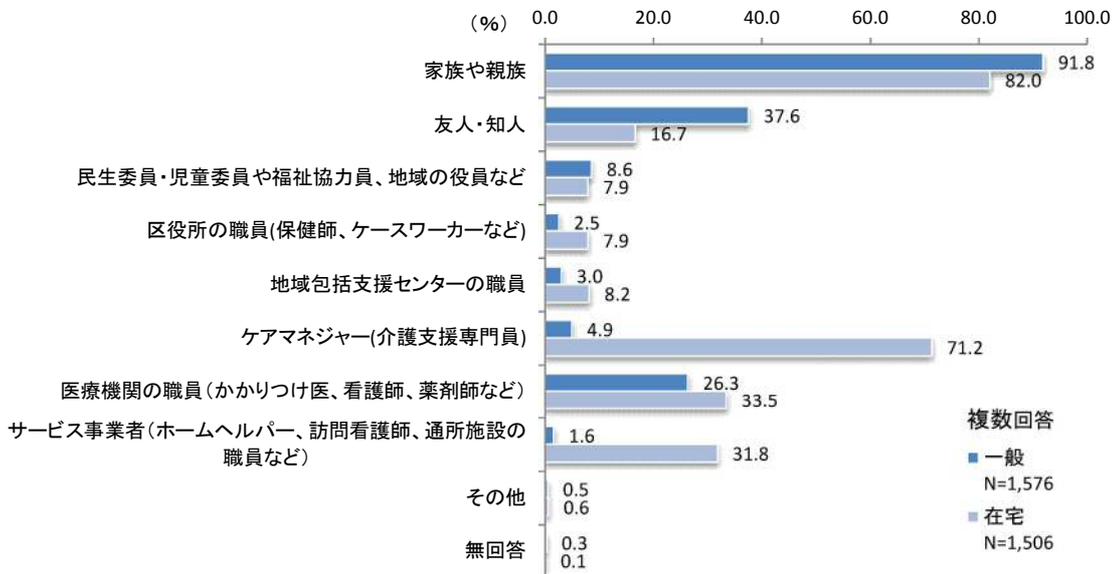
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

相談できる人の有無については、「相談できる人がいる」は、一般高齢者では86.5%、在宅高齢者では93.9%であった。

相談できる人の中で最も多かったのは、一般高齢者、在宅高齢者ともに「家族や親族」で、一般高齢者で91.8%、在宅高齢者で82.0%であった。「家族や親戚」以外では、一般高齢者では「友人・知人」、「医療機関の職員」、在宅高齢者では「ケアマネジャー（介護支援専門員）」、「医療機関の職員」、「サービス事業者」が多い。



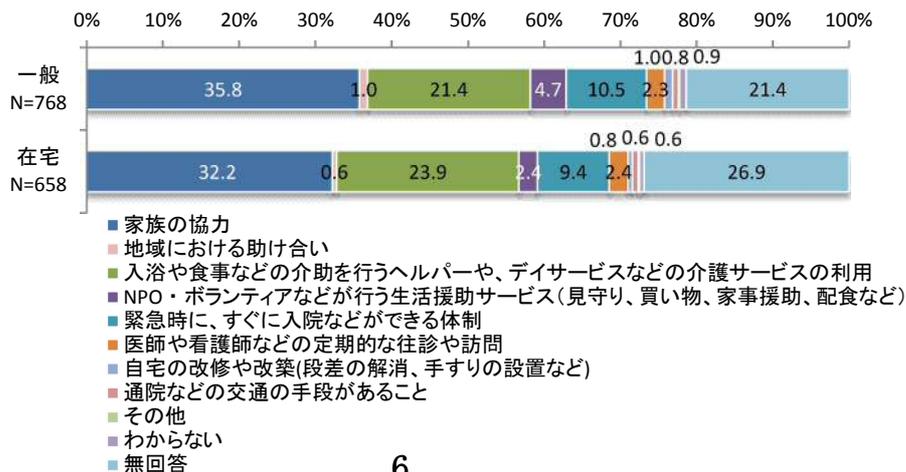
【相談できる人】(複数回答)



(6) 自宅で暮らし続けるために最も必要なこと 【報告書 93頁】

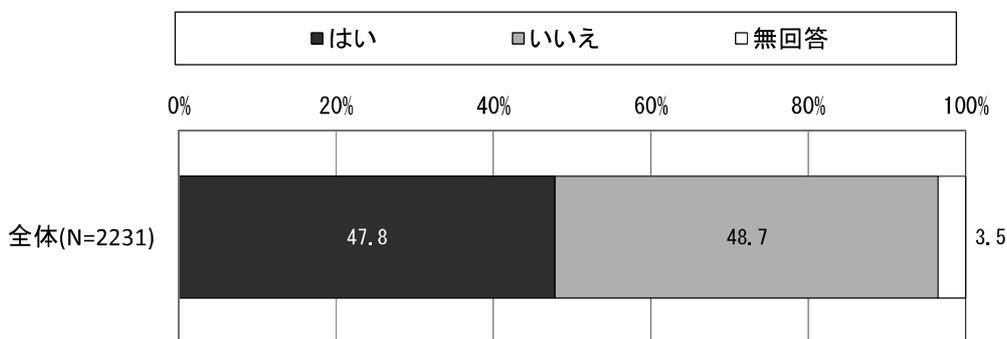
対象：『一般高齢者』、『在宅高齢者』

「ホームヘルプサービスやショートステイなどを利用しながら、ずっと在宅で生活がしたい」が最も多く、一般高齢者で42.2%、在宅高齢者で41.0%であった。



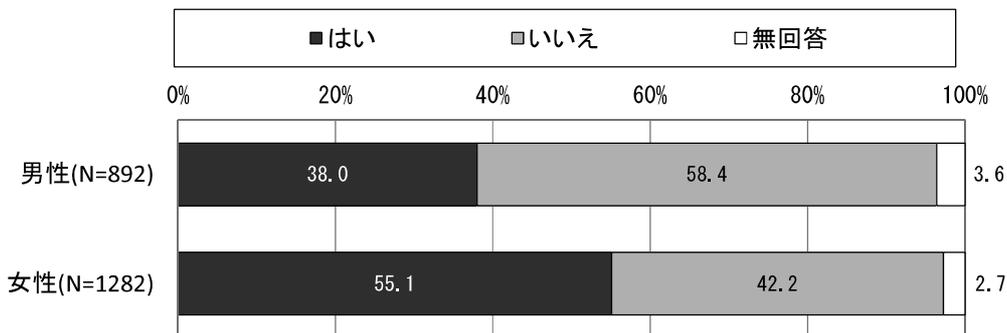
③ 近所の人と世間話をしましたか。

この1週間に近所の人と世間話をした人は47.8%、しなかった人は48.7%であった。



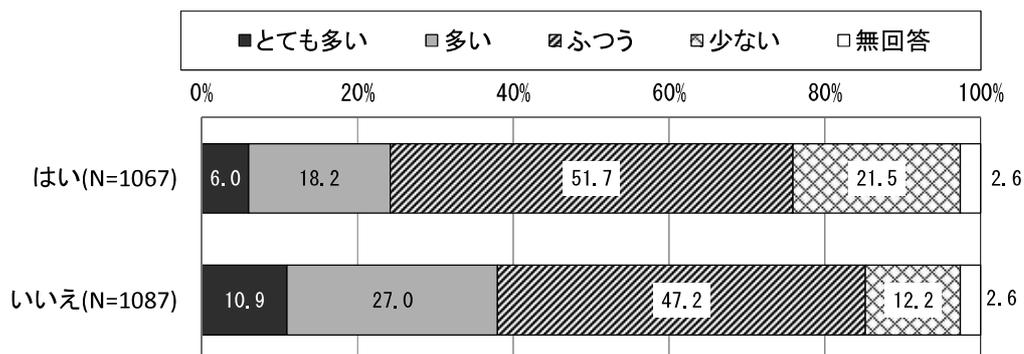
○近所の人との世間話の有無と性別

男女別にみると、男性では58.4%、女性では42.2%の人が、近所の人と世間話をしなかった。



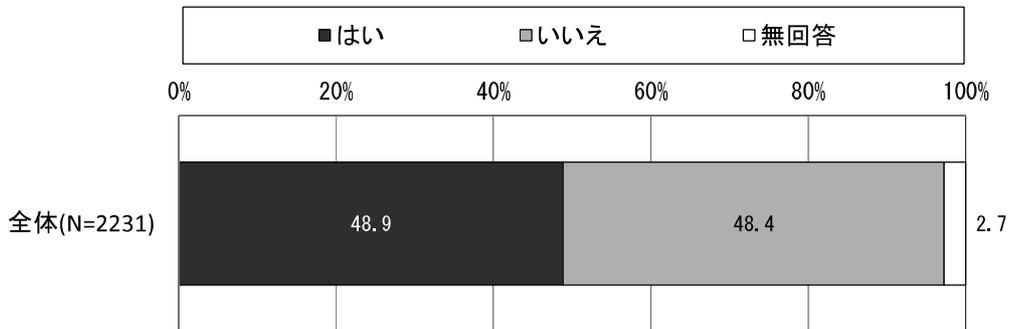
○近所の人との世間話の有無とストレス

近所の人と世間話をしなかった人のうち、ストレスが「とても多い」と回答した人の割合は10.9%で、世間話をした人の6.0%に比べて高かった。



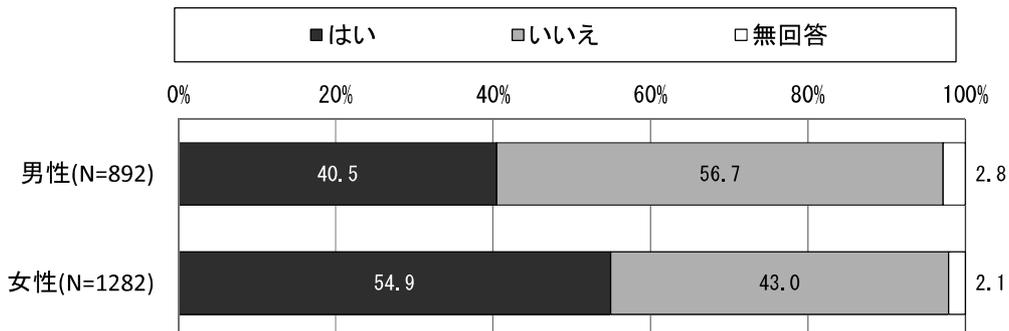
問 26 近所に、ちょっとしたことを頼める人がいますか。

頼める人がいる人は48.9%、いない人は48.4%であった。



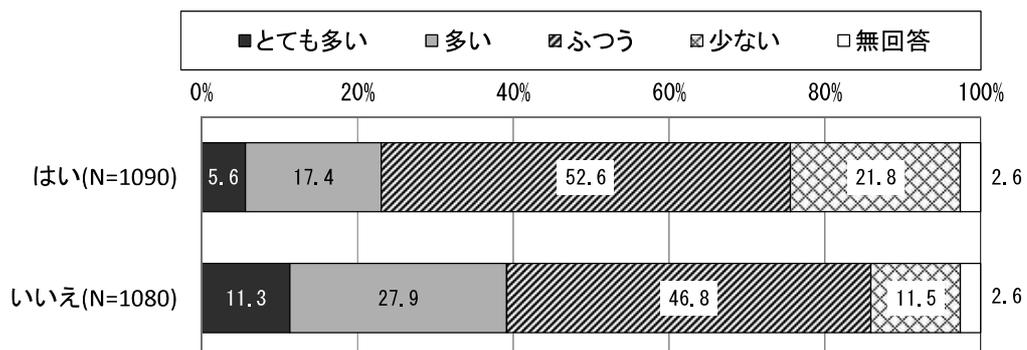
○ 頼みごとができる隣人の有無と性別

男女別にみると、男性では56.7%、女性では43.0%の人が、頼める人がいないと回答した。



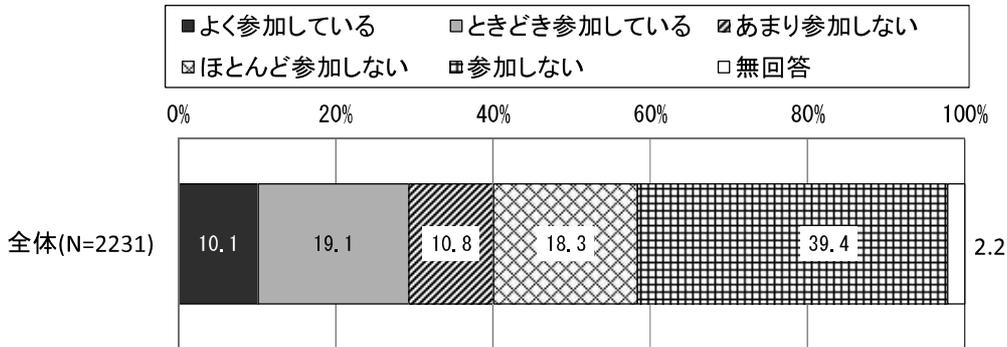
○ 頼みごとができる隣人の有無とストレス

頼める人がいない人のうち、ストレスが「とても多い」と回答した人の割合は11.3%で、頼める人がいる人の5.6%に比べて高かった。



問27 地域の行事や、近隣にある趣味の活動によく参加していますか。

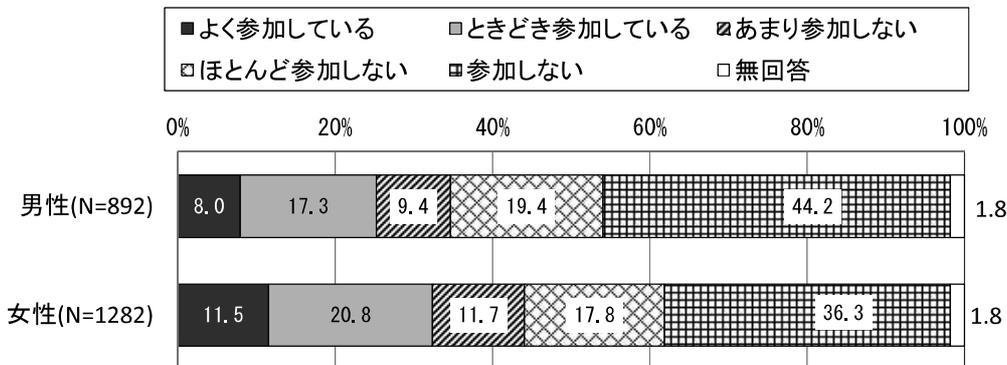
「よく参加している」人は10.1%、「参加しない」人は、39.4%であった。



○ 地域参加と性別

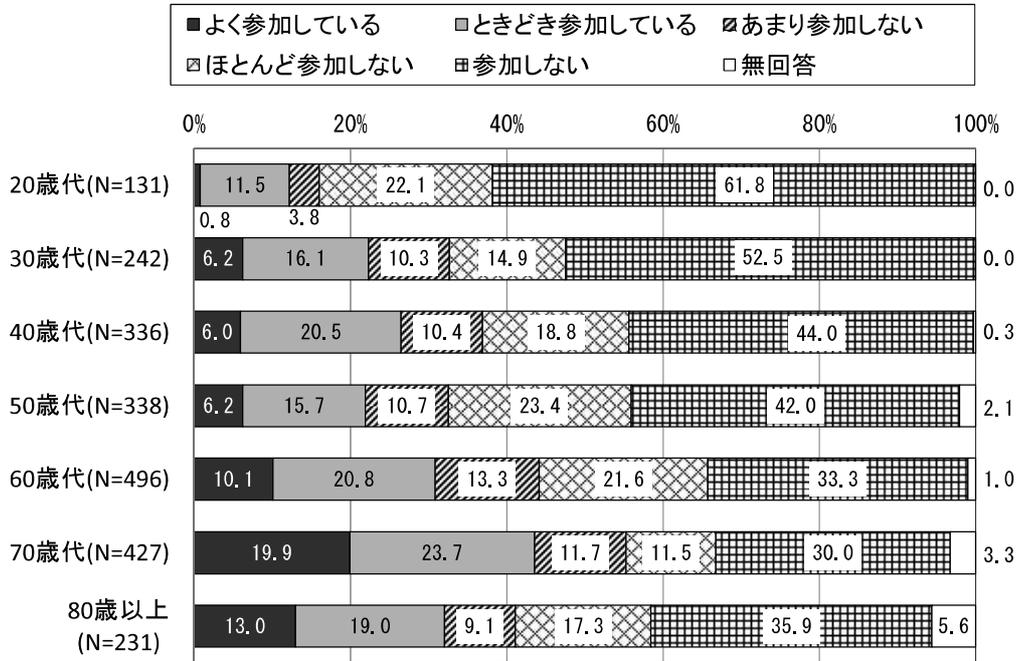
男女別にみると、男性では44.2%、女性では36.3%の人が「参加しない」と回答した。

「よく参加している」、「ときどき参加している」を合わせると、女性の方が参加している割合が高い。



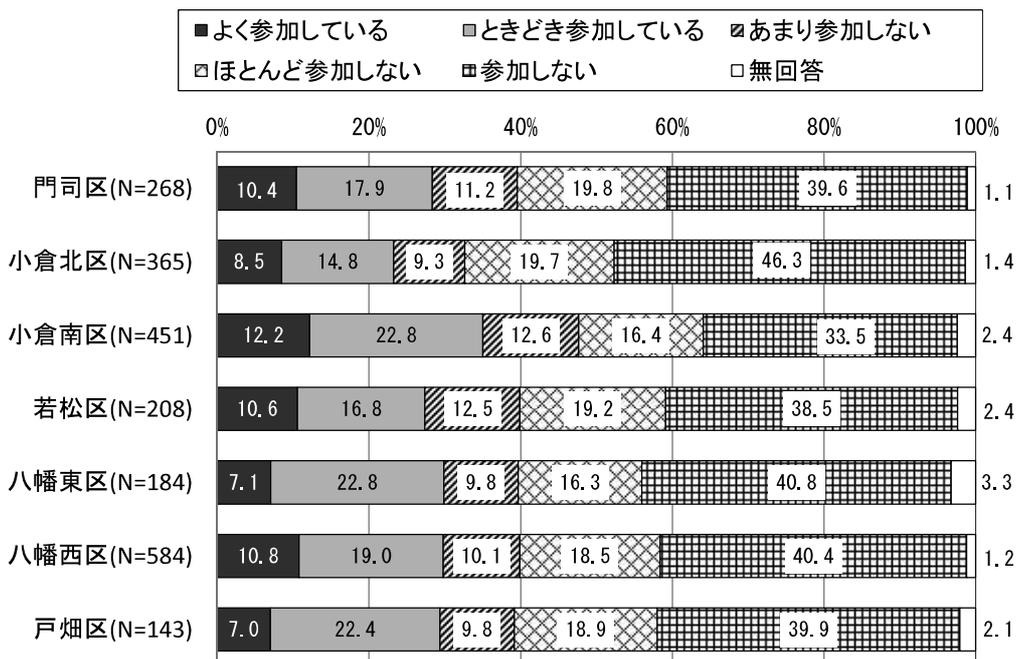
○ 地域参加と年齢

年齢別にみると、地域活動に「よく参加している」「ときどき参加している」の割合は、70歳代が最も高い。また、「参加しない人」の割合は、20歳代が61.8%と最も高い。



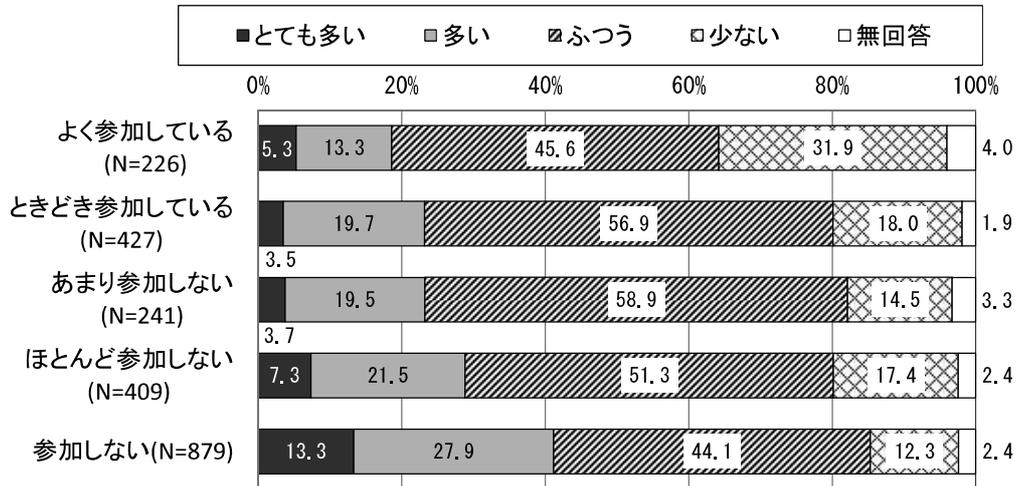
○ 地域参加と居住区

居住区別にみると、地域活動に「よく参加している」「ときどき参加している」人は、「小倉南区」が最も高く、35.0%であった。一方、「参加しない人」の割合は、「小倉北区」が46.3%と最も高かった。



○ 地域参加とストレス

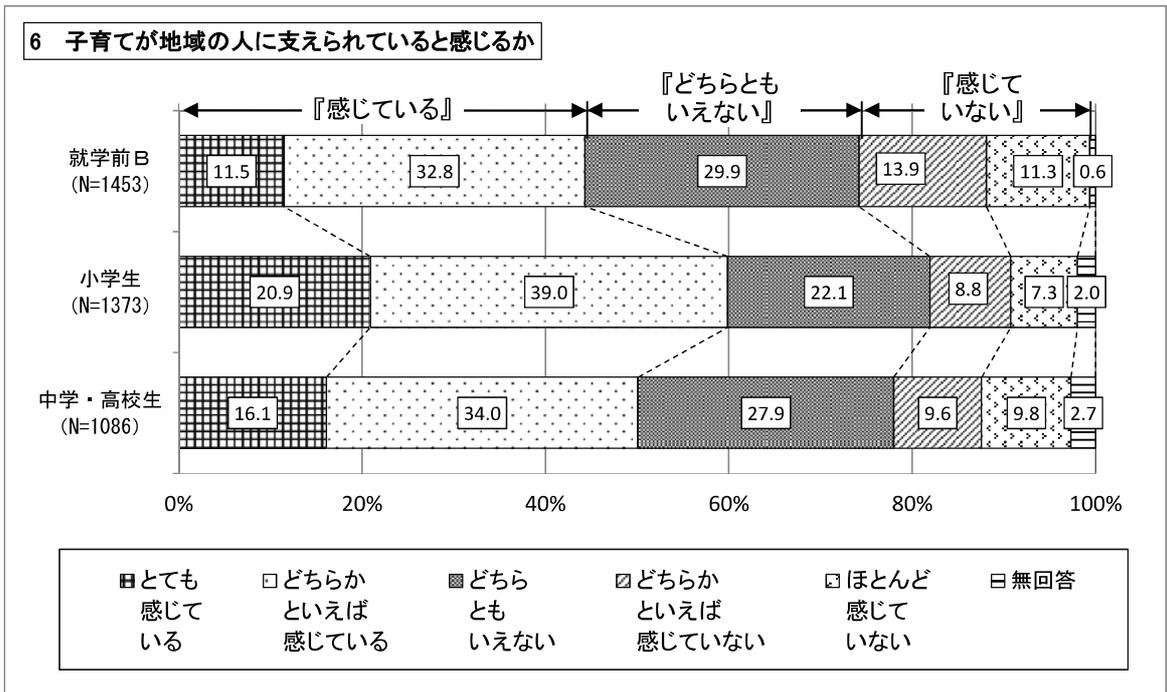
地域活動に「参加しない」人のうち、ストレスが「とても多い」と回答した人の割合が13.3%で、「よく参加している」と回答した人の5.3%に比べ高かった。



【就学前B、小学生、中学・高校生保護者共通】

6 子育てが地域の人に支えられていると感じるか

- 子育てが地域の人に支えられていると『感じている』のは、
就学前では 44.3%、小学生では 59.9%、中学・高校生では 50.1%
- 子育てが地域の人に支えられていると『感じていない』のは、
就学前では 25.2%、小学生では 16.1%、中学・高校生では 19.4%



・「どちらともいえない」と感じる人は、就学前では 29.9%、小学生では 22.1%、中学・高校生では 27.9%となっている。